

# 第7回 哲学講座

前回

・ "可能" — "不可能" (不可能)

「不可能だと思っていた」

↳ 虚像 : 不可能に内在する可能性

世の中には 99% がある誤解

・ 哲学の主な究明する対象 : 真理

↳ 完全無欠かつ  
絶対的存在

不完全な存在  
である人間が認識  
するとは 難しい。

★ 真理を探求するプロセスが大切

# 真理 (truth) と正義 (justice)

真理の探求  
(truth)

正義の追求  
(justice)

混同しやすい概念  
どう違うのか？

真理: 完全無欠かつ  
絶対的存在

正義: 正しい道理  
正しい義

“正義”は“真理”の中の一部なのか？

→ No! 真理の一部でも何でも無い。  
“真理”だからといって“正義”とは限らない。

localなものではない

例) 自然科学 - 天文学

- ・人間存在を前提として成り立っている
- ・宇宙の起源や構造は人間や地球から成り立つ
- ・人間が行っている学問だが人間を起点としている
- ・同じ自然科学でも医学は人間の病気や働きなど人間存在を前提・localな学問

local色が強い

- ・地球に人間が1人しか存在しなかったら成り立たない概念
- ・不完全な人間同士が2人以上生活している共同体において何が善で何が悪かはかる目安
- ・歴史の浅い概念
  - 1万年前には必要なかった?
  - 人類学的見地では、4,000年前頃 (B.C. 2,000年) から必要とする概念

# 真理 (truth)

文明・文化を超越した  
共通の完全無欠・絶対的  
概念。

- 3つの段階の概念を整理  
すると違いが明確になり混同しない。
- ① 事実
  - ② 真実
  - ③ 真理

# 正義 (justice)

Justice : ① 正義・公正  
 英米では → ② 裁判・司法  
 高い頻度

「善とは何か？」  
 手続きとしての justice (裁判)

一般的に法律家の間では  
近代的概念  
 (1776: アメリカ独立宣言  
 1789: フランス革命)

概して「正義」を追求しても「真理」とは限らない。  
 一方、「真理」にたどり着く「正義」もある。

truth

justice

「truth」と「justice」という2つの概念の  
 狭間の中で discretion (思慮分別・熟考) が  
 必要。

"You've got to do it at your discretion."

地球に存する一個の個人として

なるべく妥当な裁量 (discretion) を

行う。

そのために人間の理性を有している。

↳ reason given by God

truth

justice

概念を整理するとその狭間で  
バランス感覚に優れた偏りのない  
理性的判断が下せるようになる。

妥当な "discretion" 実現のために

公平無私な立場で 探究していくならば

justice (正義) と truth (真理) の

狭間に自分を置いて バランス感覚の

優れた思索を行うといふ。

[discretion]  
diskréjon

(初14c. ラテン語 discretio (分離・識別)  
discrete- (思慮分別のある = discreet)  
+  
tion.)

- ① ④ 1. [...する] 決定権 (to do), 行動 (判断・選択) の自由, 自由裁量
- 2. 思慮分別, 慎重(さ), 口の堅さ (↔ indiscretion)
- 3. 判断力, 洞察力,
- 4. (法律) 裁判所の判決決定権.

[事実] ① 事の真実。 真実の事柄。 本当にあった事柄。

② [哲] factum (ラ), fact (英)

本来、神によってなされたことも意味し、時間・空間内に見出される実在的な出来事または存在。

実在的なものであるから、幻想・虚構・可能性と対立し、すでに在るものとして、当為的なものと対立し、個体的・経験的なものであるから、論理的必然性はなく、その反対を考えたも矛盾しない。

③ (副詞的に) ほんとうに。 じっさい。

[真実]

① うそいっわりでない、本当のこと。 まこと。

② (副詞的に) ほんとうに。 全く。

③ 仮でないこと。 究極のもの。  
絶対の真理。 真如。

[真理] ① ほんとうのこと。まことの道理。

② [哲] truth (英), Wahrheit (独)

ⓐ 意味論的には、命題の表している事態がその通りに成立していること。

例えば「雪が白い」という命題が真であるのは、事実雪が白いときである。

① 真理認識の方式にはおおよそ3つの立場がある。

命題(認識する知性)と実在との合致によって真が成立すると考える対応説。

当の命題が整合的な信念体系の内部で矛盾せず適応するときに真が成立すると考える整合説。

命題や観念が実践的行為において有効・有益であるときに真が成立すると考えるプラグマティズム。

ほかには「Pは真である」は命題Pと同義であるとする真理の余剰説などがある。

④ 倫理的・宗教的に正しい生き方を真理ということもある。

〔正義〕 ① 正しいすじみち。人がふし行うべき正しい道。

② 正しい意義 または 注解。

③ (Justice)

① 社会全体の幸福を保障する秩序を實現し、維持すること。

プラトンは 国家の各成員がそれぞれの責務を果たし、国家全体として調和があることを正義とし、アリストテレスは 能かに応じた公平な分配を正義とした。

近代では 社会の成員の自由と平等が正義の観念の中心となり、自由主義的民主主義社会は 各人の法的な平等を實現した。

これを単に形式的なものとするマルクス主義は、真の正義は 社会主義によって初めて實現すると主張する。

現代では ロールズが 社会契約説に基づき、基本的自由と、不平等の是正とを軸とした「公正としての正義」を提唱。

① 社会の正義にかなった行為をなうような個人の徳性。